338

衛生の手びき

押田俊三述

全

060381-000-3

特67-338

衛生の手びき

押田　俊三／著

M13

CBM-0180

特67
338

衛生の手びき

押田俊三述

人々に一箇づゝありて大切の所有物なる生を各々が人手を待たず自分でよく衛ることを衛生といふなり然るに之れ出その衛りかたも暗くして大切なる生を租末にしその自然の成行に任せたるハこれ人々の知恵の屆かぬが故なり譬へバ各々の家を火事で焼いてハならぬとて常によくその心掛をし自火を出さぬ様にするハ勿論隣近處から燃へ出してハ大變だとて火事沙汰の多き時節にハ猶さら油断せず先づ己の家の火の元に用心しそれより近處の事も国の屆くだけハ意を注けて若し松溜の隅に火のついた炭團があつたり雪隠の中から烟が出たりすると人々が驚き慌れ互に寄り集りてすみやかにこれを消し防ぎ嚴しく後を戒しめて意を注くるハこれ己たちの家に火が舞ひかゝりて一炬になりてハつまらぬと思ひ各自の家を大切にするからなり然れど此の大切にする家よりも猶大切にすべきハ生にて一旦これを失へバ欲しくもまたと得られぬハ勿論よしや目の前に失ハずとも不養生の爲に一度身體を弱くすると終に生の危きことあり家ハ破損することあれバ隨分堅

固に修復することが出來建て直して新しくすることも出來るなれど生ハ然ハならず又家ハ萬一火事で全燒にしてもまた造ることが出來るからよしそれも人の家作を當りて住みでもして居れバ假令燒けても人の物なれどそれハ家のことにて生ハもとより借物ならず我物よてあまつさへ掛けがへも無くふたゝび得られもせぬ大切のもの故なか〳〵等閑にせられぬなりそれゆゑ常に心掛けて不養生をせず飲食を節にして身體や腹の毒になる樣にせずすべて自分で己の生を損ハぬ樣よするハこれ各自の家の火の元に意を注けて自火を出さぬと同じことなり又家の近傍の芥溜溝渠などを清潔よするハ隣近處から火の出ぬ樣に防ぐと同じことなり取り分け雪隱ハ元來不潔きものなるに若し掃除が屆かねばその上よも不潔きこと言はんかた無く人々その雪隱に上るより惡き病を引き受けて終よ生を失ふに至ること燃へ上る火を袖袂に移して身を焚くよ異ならざるなり然れバ人々の身體や近傍よ病の因ゐるハ今にも燒へ出さんとする火玉のあるが如く只その火が目に見ゆると見ぬとの差あるまでなり目に見ゆれバ人たゞまちに懼をなし目に見ねざれバさまでよ思はぬハ自然のことなれど目に見ぬものゝ害ハいかにも防ぎがたく且怖ろしきなり實に身體や近傍を不潔くして置くが上にあしき水を飲みあしき食物を食ひて身の養生

をも慎まざるハ恰も裝丸したる短銃を懷裡に入れて火の上の紐わたりするが如く自分で大丈夫と極めて居ても蹴躓いたが最後懷裡でズドンとやられるか一炬に身を亡ずかなり故よ人々よ此の怖ろしきことを考へ視て各自でよく〳〵衛生の道を心掛けねかし

前に言ふが如く生を衛るハ各自ですべきことなれど人々のまだよくその道を識らぬと事項によりてハ各自の手にて出來ぬ事またハ爲てならぬ事あるとを以て政府にてハ早く內務省の中に衛生局を置かれてすべて國中の衛生に係る事を理められたるまた中央衛生會といふものを設けられ各府縣に地方衛生會といふものを起されたれバ日本國中何の地としても衛生の事の及ぼさぬ處ハなしそハ昔政府の深く人々の自分にて大切の生を衛ることの行き屆かぬことあるを憐み玉へる恩波より此樣の方法を立てられたるなりさて中央衛生會地方衛生會ともみな委員といひて人々の衛生に就きての利害をそれ〳〵評議せらるゝ職のものがあり府縣や郡區にも衛生の事を取り扱ハるゝ職のものがあれど又町村の內にも町村衛生委員といふものが出來たり此の町村衛生委員の職をいへば上より出でたる衛生の事項をその持場內よ行き屆かする樣にして人々の衛生の世話をし常に持場內の衛生に就きての景況に意を注けて害になる事を取り除き爲になる事を行ふべき見込を立

て〻言ひ建てたり流行病のある時などにハその病の人々の中に蔓らぬ樣に豫防法を行ひたりするものなり又警察官の中にも衛生に係る事の取締をせらるゝ職がありてそれが格列刺の事などを取り扱ハるゝ時にハ檢疫掛といふ役をも兼帶せられてその豫防法の事にも意ヲ注けらるゝなり然れバこの警察官と前の町村衛生委員とが一番親しく人々よ近づきて衛生の遠を敎へたりその方法を行ひたりし政府の旨趣を奉けて人々の自身で屆かぬ所を助くるものなれバその人たちの言ふことや爲ることを己れまだ衛生の道に暗きより反つて輕り視て昔ゝ然ハ嚴しくなくても濟んだ今までも構ハなかつたなどゝいはず己からもよく己の大切なる生を衛る樣よ心掛けて政府の厚き恩波をも空よすべからず

これまでハ衛生の道を心掛けよと說き勸めたるなれどこれよりハ衛生の心掛かたの大概を平日と傳染病の流行る時とに就きて言ふなり

衛生の根基ハ衣食住の三よ在りてその適と不適とにより人の生ハ安くありまた危くあるなれバ先づ第一に衣食住に意を注け流行病のある時なき時よ拘らず平日これを怠もべからず然して身體よも汚垢のなき樣よく洗ひて清潔よし適度よ操作きて運動すれバ自然よ健康なることを得べし

衣の事　○衣服ハ時候につれて適度に着るべし濟衣ハ慣れねば風を引き厚衣もまた膚の弛むゆゑに風を引くなり然し乳兒にハ温煖なる衣服を良しとず衣服に作る品ハ毛布と綿布とを良しとす絹布紬布ハ良きものにあらず帶ハ何品にても良けれど只固く締むべからずすべて衣服ハ燥きたるを良しとす濕りたるものを着るハあしゝ汚れ垢つきたるものハよく洗ひ乾して後着るべし取り分け浴衣襦袢中褌の類ハなるたけ汚れぬ中に洗ふこと度々すべし汚と破とハ別にして汚あれバ縱令美服とても害あり襤褸にても汚なければ害なし汚はなはだしくして蟲鬱の生きたるハその害も亦甚だし○衾褥ハ相應に厚きが良し然し壯年者にハ餘り温煖にして軟柔なるをあしゝとす○笠帽を用ひずして夏の熟き陽に照され帽子頭巾なくして冬の寒き風を受くるハいづれも頭腦を害して大なる病を起すなり○桐油の如き氣の漏れぬものを肌の上直よ着るハあしゝ

食の事　○米麥を始め穀物ハよくやはらかに炊いたりして食ふべし○魚ハよく新しきものを撰びて節に食ふべし陳きもの時外のもの常に早なれぬもの又ハ鰒の如く毒ありとするものハ食ふべからず魚の鮓ハ毒あることあり知れたるものゝ外ハ食ふべからず乾魚醃魚の煮しきものハ害なけれど陳きもの惡しき臭あるもの餘り鹹からきものハ食ふべ

からず貝類わ蝸の外わ大抵消化あしきものなれハ多く食ふべからず○鳥獸の肉わ新しきものをよく煮またわ燻きて食ふべし決して生にてわ一臠も食ふべからず又硬き具ありと思ふものわ食ふべからず鳥卵のあしき具あるものわ勿論黄刃亂れ白分濁りたるものハ食ふべからず○蔬菜わ節に食ひて良しとすれど消化あしきものわ餘り食ふべからず○菌蕈類わ毒なしと知れたるものゝ外食ふべからず○油を用ひて製へたる食物わ多く食ふべからす○赤飯口取又わ菓子の類の色料にまゝ知らずに毒になる物を用ふることありよく意を注くべし○すべて何品にても大食すべからず何品よても煮炙したる物の硬くなりて味や香の變りかゝりたるハ食ふべからず又何品よても人の食ひつけぬものよて常の食物と異りたるものハ食ふべからず○醃菜類ハすべて消化あしきもの多ければ節へて少許づゝ食ふべし○果實のまだ熟せぬものハ食ふべからず殊に稚兒よハよく意を注くべし○辛辣物ハ多く食へばあしゝ○酒ハなるたけ節へて過飲すべからず殊よ強き酒を餘計よ飲むときハ急よ生命を害することあり○飲料水ハ人々が多くその土地よあり合ふものを用ひて深く意を留めぬものなれど知らずよあしき水を飲むより病を引き受くること多ければかならず良きものを撰ふべし良き水の一度沸したるものハいよ〳〵安全なりとす常よ清潔

にして良き水もその汲み取る場處の景況に意を注け時よりて汚濁又ハ水垢などあらば濾さずに飲むべからず變りたる色又ハ味や臭あるものハ飲むべからず下水またハ便所の近傍よして滲透物あるかと思ふ井の水ハ一切飲むべからずすべて不潔き物腐れたる物またハ小き蟲や蟲の卵あるものその他鹽類鑛類のあしき物を含みたるものハ皆害あり意を注けて飲むべからず又飲みかたによりても害あり一度に多分に飲み又ハ氷冷水などを熱き時に多く飲むハあしゝ○湯や茶も澤山に飲みてハ宜しからず○乳兒よハ別に意を注くべきことあり第一不良性の乳汁又ハ不潔き水を消せたる牛の乳病ある牛の乳を哺すべからず脂質の物またハ固りたる物を充てがへバのならず病を起すなり又果實や醃菜類を邸らするわ害ありその他意を注くべきことわ玩物やその他の染彩ある物を舐ることなりそれを染めたる顔料に毒となるものあり

住の事　○土地わ清潔よして風通しよく明よく照り暑強からず寒烈しからざるを良しとす地面高くして樹の多きわまことに住居に宜し卑き地面わとかく水氣多く餘り樹の生ひ茂るときわあしゝ故に卑き地に住む人わ猶さら意を注くべし○家わその内を清潔よ拭き掃除し家の前後に戸口またわ窓ありて空氣のよく換る樣にすべし雨の日よわ雨氣を吹き込

ませぬ樣にし暗れ乾きたる日にわ開け放ちてよく風を通し家の中に濕氣なき樣よすべし家の周圍や近傍不潔ければ住むものに病多く特よ格列刺の如き流行病を煩ふなり故によく下水を流し腐敗物や汚穢物を家の近傍よ置かず日々掃除を屆かすべし市街の家立てこみ路狹き處またわ裏家などにてわ猶さらなり○便所わよく掃除し糞を澤山溜らせぬやう度々汲み取らせ時候温暖なる時よわ真を止むる藥を撒くべし人數多き處よてわ猶頻々よ然するを住しとす○芥溜もまた度々芥を他へ取り棄てゝ家の近傍又ハ陰き處よ積み置くべからず○その他馬房牛舍などハ常によく掃除すべし

人に傳染る病の中怖ろしきものわ格列刺腸窒扶斯赤痢實扶的里亞發疹窒扶斯痘瘡の六にしてこれを感受くれば大抵わ生命危し故にこの六の病の流行る時よわ人々別けて用心して油斷せずその豫防法よ意を注くべしすべて傳染病を防ぐわ一に人々の中に蔓りうつる因を取り除くが爲に土地住居衣服などを清潔にすべし二に人々の身體の中に病を受くる因なき樣にするが爲に飲食を慎しみ勞き過をせずして養生をすべし三に病の毒の傳染り來る道を截るが爲にその病人を遠ざけ又わ己よりこれを避くべし又その病人の汚したる物を他へ散さぬ樣に取り始末すべし四に病の毒を根絶しするが爲よ藥またわその他の法を用ひて消毒法を行ふべし

格列刺の事　俗にハ「ころり」といふなりその容體ハ初二三日の間常の下利の樣にてあるか又ハ卒よ始まりて腹が鳴り米泔汁の樣なる大便を下し下る前よ臍の傍少し痛みまた吐あり渴き小便出なくなり頓て身體冷いて色蒼白くなり呼吸苦しく胸つまり聲嗄れ腓腸引きつり顏の肉脱ちて手足皺よるなりかくの如き病人あらバ格列刺と知るべし○此の病ハ四月頃より十月頃までの時候に流行りて潔き土地よ多しその傳染る毒ハ病人の吐き瀉したる物よありてその吐き瀉して後少し舊くなりたるハ新しきよりも餘計に傳染りまた罌粟粒ほどにても種があれハかならず傳染るなり故に衣服やその他の物よ着きてあれば早晩人に傳染り又ハ地に滲み透れバ飯水の中に入りてそれより人よ傳染るなり不養生のもの身體や衣服の不潔きもの胃腸の病あるもの風を引きたるもの又ハ不良水を飲むものハ此の病を感受け易し○住居の周圍を清潔にしよく下水ハ溜便所などを掃除すること平日よりも一層意を注け飲水の不潔きものハかならず用ひず良きものとても深く用心するにハ濾したり沸し冷しにしたりして用ふべし氷又ハ冷水を澤山よ用ふるハあしゝ大食したり消化あしき物を食ひたりまだ熟せぬ果實を食ひたりすればそれが爲よ格列刺を感受く

ることあり又みだりに下劑を用ふべからず○雨に濡れたり夜行きたりするを慎しみ程に過ざたる力役をすべからず又冷へたゝ下りたゝするゝ防ぐ爲に紋羽か木綿まて下腹を卷くべし○若し指列刺病人あるときハこれを遠ざけ又ハこれを避けその病人の入ゝたる便所まハ汲み取りたる後も當分入ゝもべからず又指列刺病人の室にハ勿論その吐きたる物瀉したる物またハそれに汚れたる衣服衾褥蚊帳その他室の中にある物にハ法（法とハ消毒法なゝ此の下にあるも亦同じ）の如く取ゝ始末するまで近よるべからず○指列刺のある土地へハなるたけ往くべからず祭禮劇場寄席講釋場觀場などの人の多く集る處へ住かざるをよしとす不潔き理髮店溶舗に入るべからず不潔き割烹店に入るべからず不潔き旅店まハ宿るべからず不潔き人力車馬車に乘るべからず貸座舗楊弓店などの如き種々の人の出入する場處まハ立ち入るべからず靈場順拜の類ハ當分見合すべし殊に汚れたる行衣などを着るハ宜ろからず○產婆針醫按摩などを召ぶにも衣服などの不潔く見ゆるものまハ意を注くべし醫師ハ勿論常人にても指列刺を傳染ゝハせぬものとする人ハその身まハ用心せぬまゝ毒を輸び來て他の人まうつすことあゝ意を注けてそれに近よるべからず○出處知れざる古着古布古綿古道具またハ紙屑などにハよく意を注くべし又貸衣具貸蚊帳などにもよく意を注くべし殊まハ古衣商質舗損料貸古道具商染物職裁縫職洗濯職藍蠟製造家古綿打返職紙漉職などまハ知らずに汚れたるものを取ゝあつかふ懼あれば隨分用心すべし

腸室扶斯の事　世間まハ傷寒瘟疫またハ熱病といふハ多く此の病なゝ容體ハ初に全身中が倦惰く食氣なく頭痛眩暈などして四肢痛み惡寒ありてそれより熱出でその容體が漸々重くなりて熱が日ましに強く右の下腹の側を按せハ痛み大便ハ結したりまたハ腹が痛みて下りたりし體の膚が燥き小便の色ハ茶色にてその出かた少く時々譫語あゝ三日めから後まなると蚤刺の如き赤きものが稀疎に胸腹まゝ出來はじめて終に背や四肢まで出來るなゝこれ腸室扶斯と知るべし○この病ハ夏旱魃の後またハ秋の時候まハ多く一度もこれを煩ひしこと無きものハ餘計まハ煩ふなゝその毒ハ汚穢き場處に出來て空氣や食物や飲水より人の體まハ入りそれよりまたその病人の大便より毒が地に入り井などハ滲みこみてその水より人々の中に蔓りうつるものとす故にあしき食物を食ひ汚き水を飲むハ此の病を感受くる因となるなゝ○住處や便所を清潔にし衆人一つ處に集ゝ居すあしき水を飲むべからず不潔き食物を食ふべからず○若し腸室扶斯の病人ある時わこれを遠ざけ又わこれを避けその大便や大便に汚れたる衣服布片の類またハ臥具を法の如く始末すべし

赤痢の事　痢病のことなり病初の容體わ全身疲倦れ四肢痛み食氣なく度々寒けして神思引き立たずそれより下り始め下りの前下腹一面に痛み努責たち頓て大便に少しづゝ血混りその分量減りて澁り便所に通ふこと二三十度乃至五六十度となり赤き色の膠樣物を下すこれ赤痢なり○此の病わ夏熱き時分またわ晝わ大そう熱く夜わ大そう冷しき時候に流行り臭くして汚き土地に多しその毒わ地面の臭く汚き處に出來て人に着きその病人の大便やそれに汚れたる物より毒氣が立ちて人に傳染り又その毒氣が地や水や空氣に入りてふたゝび人に着くなり不良き水熟せぬ果實消化あしき物を食ふなどわ皆この病を感受くる因となるなり○家の内を清潔にして空氣の通をよくし裸で臥たり夜行きたりせず不良水を飲まず不消化物や噫氣の出る樣の物を食わず又果實を食わず然して下腹を包みて温暖にすべし安に下劑を用ふることなどすべからず又他處の便所に入るときわ意を法くべし

○赤痢の病人ある時わ病人にわ勿論その下り物又わそれに汚れたる物に近づかず汚れたる衣服衾褥などわ法の如く始末すべし

賈扶的里亞の事　世間にいふ馬脾風喉頭又ハ咽氣に此の病なるものあり容體わかならず咽に障ありて痛み物を嚥み下すに困難く腭の下またわ頸の圍に腺腫が出來て痛み咽の深部を視れば白き物着きてあり時々咳出でゝ息苦しきなり○此の病わ時を定めずにあり煩ふものゝ大概小兒にして十五年許より以下のものに多くまた一度のみならず幾度も煩ふなりその毒わ人の體の内に出來て直に人に傳染り他のこれを煩ふ小兒の唾痰涕またわ呼氣より傳染るものなり又病人に近づかざるも傳染ることあり煖まりて居る頸の圍を卒に冷したり風を引きて咽の痛あるなどわ此の病を感受くる因となるなり○頸の圍を冷さぬ樣にして氣のつよき物や鹹からきものや辛味のあるものを飲食せず高聲を出したり歌を唱ひたりまた頻に啼きたりすること無き樣にすべし○若し賈扶的里亞の病人ある時わ一つ室に居ることわ勿論それに近づくことを戒しめ病人に用ひたる手巾布類などにも觸るべからず若し餘義なく病人の傍へよること長き時間なるときわ石鹸にて身を洗ひ少しの時間なるときわ手を洗ひまた漱すべし

發疹窒扶斯の事　此の病も亦傷寒瘟疫またわ熱病といふものゝ中にあり其の容體わ初に一身倦怠く食氣なく頭痛眩暈惡寒して四肢に痛あり三四日めに大そう寒けして戰へその次の日にまた少し戰へ身熱くなり顔や目赤く頭痛四肢關節の痛いよ〳〵強く熱急に劇しくなりて咳嗽噴嚏出で四五日めに赤き發疹胃高より出來はじめて軀幹や四肢に蔓るその

發疹ハよゞ集ゞて幾箇にもかたまるなゞその毒ハ狹き處の不潔よゞ出來病人の居る室またハ衣服器具よゞ人に傳染ゞ衣服の不潔勞作の過度夜行裸臥またハ食物の不良と飢餓と身體の衰弱とハ此の病を感受くる因となるなり○家を清潔にし空氣の通をよくしよく浴に入り衣服を洗濯し不潔き水不良き食物を禁ずべし又衆人の群集することをすべからず

○病人の居室衣服その外その近傍にありたる物よ近づかず法の如く始末すべし若し餘義なく病人またハその衣服などに近づきし時にハ石鹸にて身體手足を洗ふべし

痘瘡の事　疱瘡のことなり容體ハ初劇しき寒け戰へありて大熱出で頭痛眩暈し惡心く腰痛みまた舌白くなりて涎を流し嚥下困難きものあり搖擺譫語あるものあり熱出でゝ後三日めに發疹始めて顏に現ハるゝなり○此の病ハ一度煩へバ二度煩ふことハなくかならず種疱瘡せぬものに傳染り傳染れバはなはだ危きものなりその毒ハ疱瘡の漿膿汁痂皮またハ病人の身より出づる蒸發氣よありて毒を含みたる居室衣服布片器具より傳染りまた空氣の中にある毒を人が吸氣より吸ひ込みて感受けまた塵埃蚊蠅その他の小虫より毒を搬ぶなり又簡牘などに着きて遠くより傳染り來ることあり種疱瘡せずまだ此の病を煩ハぬものはかならずこれを感受くるなり○此の病を防ぐよは種疱瘡すべし然すればかならず感受けぬなり若しまだ種疱瘡せぬ中よをよく疱瘡病人に遠ざかりその痂皮落ちて後も當分ハ近づくべからず又病人の居りし室にハ四五十日の間入るべからず衣服臥具などに含みたる毒ハ長く脫ずにありて何時までも人に傳染るものなれば嚴しく法の如く始末すべし

○附錄

痲疹の事　「はしか」のことなり此の病ハ前の六の病のやうに怖ろしきものよハあらず容體ハ初風を引きたる樣にて噴嚏乾咳出で眼の中赤くなりそれより後寒け戰へありて熱強く出で續きて發疹顏より始めて一晝夜またハ一晝夜半の中に軀幹四肢にまで出來發疹ハ赤き色なれどもその間の色は常の如し○此の病わ多く秋冬又わ春ある病にして十年め許より二十年め許の間に大流行しその他の年よも時々あるものなり初生の兒と老人とわ煩ふことハ少けれどその他の小兒壯者ともまだ一度も煩わぬものわ皆煩ふなりまた二度煩ふものも稀よわありその毒わ病人の口鼻より出づる呼氣體膚より出づる蒸發氣またわ痰涕淚などより傳染り病初より成熟になるまでの間わ傳染りかた劇しきものなり○傳染るを防ぐよわ病人よ近づかずその涕淚などに汚れたるものに觸らぬ樣にし若し近づきし時にわ石鹸にて身體四肢を洗ふべし又病人の臥具衣服などを始末するわ

疱瘡にならひて可し
衛生の手びき終

明治十三年十月廿日反刻御届
同　月　出版

（定價貳錢）

反刻出版人
長野縣平民
伊藤甲造
信濃國小縣郡上田町
千百三番地

發兌
上田活版社
同町千百二番地